

平成 28 年度
第 1 回 北広島市食育推進懇談会議事録

■開催概要

日 時：2016 年 8 月 1 日（月）18 時 30 分～19 時 30 分

場 所：市役所本庁舎 2 階会議室

1. 出席委員 東隆史委員、三上ルミ子委員、石橋和子委員、長島博子委員、
高橋美千代委員、高嶋真一委員、小松義幸委員、成田まゆみ委員、
本間ひろみ委員
2. 欠席委員 山崎久美子委員
3. 事務局 上野正三市長、福島政則保健福祉部長、及川幸紀健康推進課長、
野切徑代健康推進課主査、後藤祐子健康推進課主任
尾崎英輝健康推進課主査、十河亮太健康推進課主事
4. 傍聴人 なし

1. 開会

2. 選任書の交付

- ・市長より、委員に選任書の交付

3. あいさつ（市長）

- ・第2次食育推進計画策定の懇談会委員として、快く委員選任を引き受けていただけたことに御礼を申し上げる。
- ・国においては食生活の乱れ、生活習慣病の増加、食に関する感謝の気持ち、伝統的な食文化の創出などの様々な問題を解決するために、平成17年に食育基本法を制定、この法律に基づいて食育推進基本計画を策定し、様々な施策が行われてきている。今年3月には第3次食育推進基本計画が策定された。この中では、家族構成、生活スタイルの多様化、孤食や朝食の欠食などが課題として取り上げられており、これは北広島市においても共通の課題となっている。
- ・食は命の源であり、子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に着けるために大切と考えている。
- ・北広島市においても平成23年3月に第1次食育推進計画を策定し、食育に関する幅広い施策を展開してきた。この計画が本年満了するため、新たな計画を策定することとなった。委員の皆様には、本計画の策定、進捗状況・進行管理等にご協力をいただけるようよろしくお願いいたします。

4. 自己紹介

- ・各委員自己紹介、事務局紹介

5. 座長、副座長の選任

○座長あいさつ

- ・市長からもお話があったように北広島市の食育の推進について、このようにみなさんに集まってもらった機会なので、本懇談会の結果が市民のためになるように精力的に進行に努めていきたいので協力の程、よろしくお願いいたします。

○会議の公開に関する確認

- ・会議の公開について異議なし

6. 議事

(1)北広島市食育推進計画の概要について

座長：北広島市食育推進計画の概要について事務局から説明をお願いしたい。

事務局：資料1・2に基づき説明

座長：今の説明について、質問・意見等があれば出してほしい。

＝特になし＝

(2)スケジュールについて

座長：次に、スケジュールについて事務局より説明をお願いしたい。

事務局：資料3に基づき説明

座長：スケジュールについて、質問・意見等があれば出してほしい。

＝特になし＝

(3)第2次北広島市食育推進計画の策定に伴うアンケート内容について

座長：アンケート内容について説明をお願いしたい。

事務局：資料4に基づき説明

座長：アンケートの内容について説明を踏まえ、質問・意見等があれば出してほしい。

委員：6 ページの問 15②の選択肢に「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」とあるが、ここに参加しているみなさんは普段賞味期限が過ぎた食品をどのように扱っているのか聞きたい。

委員：捨てない。

委員：パン、プリン、ヨーグルトなどは1・2日過ぎても大丈夫だと思う。若い人は思い切りがよいのか、賞味期限を見て、1日でも過ぎていたら捨ててしまう人が多いように感じる。子どもに言うと、「お母さんの体と自分たちの体は違うんだよ」と言われてしまう。

委員：そもそも「賞味期限」と「消費期限」の意味が違う。賞味期限は過ぎてしまっても自分で判断できるが、消費期限は気をつけないといけない。消費者協会でもみなさんに教えるようにしている。

座長：委員から食品ロスに関係してみなさんの日常を聞きたいという声があった。アンケートの設問としてはこのまま残すということによいか。

委員：設問としては残しておき、アンケートの結果を把握したい。

委員：問 16・問 17で「道内産の野菜を購入しますか？」とあるが、北海道で生産されるのは野菜だけでなく畜産物もあるので、そこも含めるような設問にならないか。

事務局：前回のアンケートで、このように野菜に限定した設問となっているため、このようにしている。

委員：国が示す「第3次食育推進基本計画」でも「地産地消」という言葉が載っている。しかし、市のアンケートでは「地産地消」という言葉は出てきていない。だが、地産地消という言葉で、地域のもを食べようという動きもあるので、どこかに入れることはできないか。例えば、地産地消を知っているか等。この設問を加えることで、地域で獲れたものを地域で消費しようという意図が伝わるのではないか。食品ロスは以前から大きな問題になっており、これは買い物をする段階から無駄になっているのだと思う。小学校で食育を教える際には、買い物から食べ終わった食器を片づける段階まですべて伝えるようにしている。だから、買い物をする時に考えて買うという内容が選択肢に入っているのはよいと思う。また、問22の「いただきます等の挨拶をしているか」という設問については、以前に学校給食に関する取組を行った際には、食べ物に感謝することを入れてほしいと依頼したことがある。子ども達も「いただきます」「ごちそうさま」など命をいただいていることを勉強しているので、このような設問があるのはよいと思う。

座長：まず問16・問17に関して、野菜に限定している部分について、「地産地消」という言葉を使ってはどうかという意見についてどうか。前回のアンケートと比較することも考えると難しい部分もあるかもしれない。もう一点が、問23の「感謝して食べる」という言葉の取り扱いについての意見についてはどうか。

事務局：アンケートの紙面に制限があるため、この中で納められるのであれば追加を検討したい。

委員：青字の部分が削除されるとのことなので、入るのではないかと思う。

事務局：3問分のスペースが減るので、全体の配置もみながら検討する。

委員：野菜の「地産地消」について、北広島市以外の江別市や恵庭市などは農産物の生産が多いが、北広島市は専業野菜農家が少なく、生産量も少ないと聞いたことがある。「地産地消」のニュアンスは、若干他の地域とは違ってくるのではないか。農協に行けば市内で生産された野菜は買えるが、「くるるの杜」では近郊地域の野菜も取り扱っている。要するに、北広島市産の野菜を手に入れようと思っても手に入れるのが難しい状況にある。

委員：学校給食には市内の野菜を取り入れている。

委員：消費者が買おうと思った時に場所が限定される。

座長：北広島市の野菜という話が出ているが、問16・問17については「道内産の野菜」とあるので幅広く設問されている。事務局からあった通り、地産地消として入れるのであれば全体のボリュームで検討したいとのことよろしいか。

委員：よい。

座 長：もう 1 点の間 23 の設問に「感謝して食べる」といった言葉を加えるかどうかについてはどうか。

事務局：前は「あなたは食事のとき、いただきます、ごちそうさまの挨拶をしていますか？」という設問になっている。言葉を追加することによって設問の内容が正しく伝わらないことが危惧されるので、できればこのままでいきたい。

座 長：わかりやすくシンプルな言葉を使いたいということと、前回の調査との兼ね合いでこのままでいくということでしょうか。

委 員：よい。

座 長：他に質問・意見がある方がいれば挙げてほしい。

＝特になし＝

7. その他

事務局：みなさんから出していただいたご意見を踏まえ、アンケート調査票を修正し、調査を実施する。次回の懇談会では、アンケート調査結果の報告、第 2 次計画の骨子の検討、第 1 次計画の進行結果の報告も含めて、ご審議をいただきたいと考えている。日程については後日調整して連絡する。

座 長：他に委員から何かないか。

委 員：前回のアンケートの回収状況が 52.2%とある。このアンケートに回答した人は、食生活がきちんとしている人が多く、朝食の欠食や孤食の人の割合は低いと思う。本来は食生活に課題のある人の声を拾うべきだと思うが、それをどう調査するかが難しい。せめてもう少し回収率があがればいい。回収率を上げる得策はないが、私自身もいろいろなアンケートに回答する場合に、設問数が多いと見た目だけで協力をためらってしまう。

事務局：回収率が 50%あれば、状況把握はできるということで聞いている。しかし、回収数が多いに越したことはないので、工夫をしていきたい。

座 長：回収率を上げる方策が何かあればということだが、設問数が多いと厳しいというのがあったので、それも含めて検討していただきたい。

(以上)